

## 編集後記

臨床心理学部研究報告編集委員長 松田真理子

『臨床心理学部研究報告』第10集は論文3篇、研究ノート1篇を掲載することとなり、多くの投稿者ならびに、査読の労をおとりくださった先生方へ深く感謝申し上げます。

第10集では禹先生、Levy先生、博士後期課程大学院生の田中さんによる論文、千秋先生による研究ノートによって構成されており、各先生方の日頃の実践と研究が貴重な知見として結実しています。

本学で開催された2017年度日本スピリチュアルケア学会第10回大会における平岡聡学長の講演で非常に印象的なお話がありましたのでご紹介したいと思います。平岡先生は共生・関係性・自他同一を強調し、生まれ変わり・輪廻・縁起・無情を説かれ、自業自得を信じてもうならない娑婆に我々は住んでいることについて話されました。善行には良い結果を、悪行には罰を与えられれば我々は納得しますが、時として善人が苦しみ、悪人が権勢を振るい世に跋扈します。むしろ心優しい佳き人々が不条理に呻吟することが世の常でもあります。自業自得の論理が当てはまらず、身に覚えのない苦しみにもがく時、「人の苦しみを自分が引き受ける、あるいは共に受けることによって自分の心を磨くことにつながる」という考えを平岡先生は説かれました。「人の苦しみを自分が引き受ける」という代理受苦の考え方の対極ではありますが、同一線上の思想がハンセン氏病患者の治療に生涯を捧げた神谷美恵子の思想ではないでしょうか。神谷がハンセン氏病患者に捧げた詩「なぜ私たちがでなくあなたが？あなたは代わって下さったのだ 代わって人としてあらゆるものを奪われ 地獄の責苦(せめく)を悩みぬいて下さったのだ」と謳った思想と、平岡先生の説かれた代理受苦は通底していると考えられます。「人の苦しみを自分が引き受ける」と「私の苦しみをあなたが引き受けて下さっている」という状況は、対極を示しているながら代理受苦という同一思想の陰画と陽画であると考えられます。

現代社会はテクノロジーの目覚ましい発展を中心とした、めまぐるしい変化の中で過剰なまでに利便性や快適さを追求する側面があり、苦労や地道な努力を忌避する傾向に拍車がかかっています。人間が等身大の自分を見つめ、喜びと共に当たり前の苦労も謙虚に受け入れながら、日々を丁寧に生きる真摯な姿勢に立ち戻ることが求められているのではないのでしょうか。

引き続き、学部紀要の社会的役割や教育的側面などを鑑み、内容のますますの充実をはかっていきたいと願っております。

### 執筆者紹介 (掲載順)

禹 鍾 泰	京都文教大学・臨床心理学部・臨床心理学科・教授
Lawrence S. LEVY	京都文教大学・臨床心理学部・臨床心理学科・助教
田 中 莉 紗	京都文教大学大学院・臨床心理学研究科博士後期課程
千 秋 佳 世	京都文教大学・心理臨床センター・専任研究員

### 2017年度 編集委員会

\*松田 真理子・住岡 恭子 \*編集委員長

## 京都文教大学 臨床心理学部研究報告 第10集

平成30年3月31日 発行

発行 京 都 文 教 大 学

〒611-0041 京都府宇治市槇島町千足80

電話 (0774)25-2400

印刷 株式会社 田中プリント

〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入石不動之町 677-2

電話 (075)-343-0006